

第7回旅を楽しむ会旅行 そのI

「シアトル観光とオリンピック国立公園を訪ねて」

平成29年8月はまるで温帯雨霧林帯の雨期、涼しい釧路から東京に戻って連日降り続く雨と凌ぎ易さに驚かされた。

8月17日夕方、旅を楽しむ会4名は、北米大陸横断皆既日食観測と二つの国立公園を訪ねる旅に出発する。一行が搭乗するANA機は雨で濡れたタクシングウェイを滑走路に向かってゆっくり動き始めると、機体が突然眩しく輝き、辺りが急に明るく広がる。久しぶりに夕暮れの太陽が顔を出して、祝福を受けた旅立ちとなる。

定刻に成田を離陸、米国に向かって9時間余のフライトが始まる。新型機ボーイング787はエコノミー席が3×3×3の配列、前後は幾分広くなったけれども窓側席は出入りが不自由である。だがANAの機内サービスはよい。いつものように持参したスリッパに履き替え、新聞に目を通し邦画を1本観終わる頃に食事が始まる。和食を選び、ビールの追加に日本酒、読みかけの小説を開き、やがて眠る。現地時間8月17日11時20分、ワシントン州シアトルのタコマ空港に到着する。

(第1日目) 空港に現れたのは日本生まれ在米20年のドライバー兼ガイドが二人、経験豊富な様子、旅慣れた同行添乗員とスタッフが揃い、楽しい道中になりそうである。昼食後二台のトヨタランドクルーザーに分乗してシアトル市内観光を開始。セコフルド球場入口に掲示されたイチロー選手の大きな写真は、マリナーズ球団に帰ってほしい願いなのか。スターバックスの1号店、シーフードマーケットをぶらり観光後、カーフェリーでオリンピック国立公園に向かう。陸路を大きく回るよりも時間短縮だろうがこの日は2時間待ちで乗船。海峡はカナダとの国境、穏やかな海、よく晴れた青空、マウントレーニア(タコマ富士)が遠くに見える。瀬戸内海の航路と似た雰囲気。今夜の泊りはポートエンジェルズのレッドライオンホテル。ビーチというよりヨットハーバーに面するモーター風建物。オリンピック国立公園の入口近くにあり、ここに3連泊する。



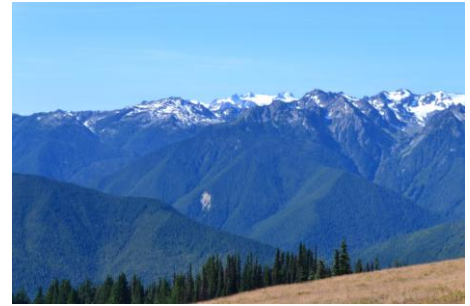
(第2日目) 8月18日、霧の漂う朝。オリンピック国立公園のクレセントレイク沿いを西にドライブ、朝夕は霧で昼間は晴れる釧路に似た気候、海岸線を走り原住民の居住区を訪ねる。遠く太平洋の彼方は日本に繋がる。東日本大震災の漂流物がたどり着いた海岸らしい。流木が累々と海岸に横たわっている。



Tsunami と記された警戒標識が立つ、津波は日本語由来。海霧漂う肌寒い海岸でサーフィンに興じる若人達がいる。

(第3日目) 8月19日、今日は昨日より気温がかなり高く曇り空。オリンピック公園心臓部のビジターセ

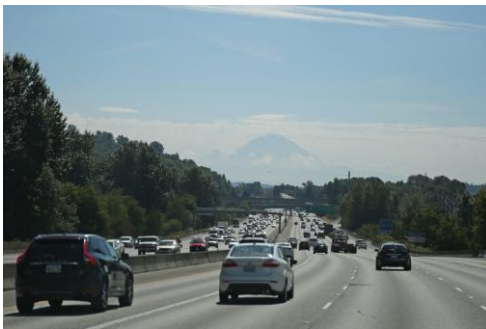
ンターゲートをくぐり、広大な公園が一望できる展望台に立つと快晴になった。残雪に覆われたオリンパス山(2432m)の左右に広がる白い山の風景はまるで北アルプスにも似た素晴らしい眺めである。次に温帯雨林帯のレインフォレスト二箇所を訪れる。2mを超えるサルオガセが垂れ下がり、コケ類に覆われ、シダが生える広葉樹の森が広がり、高さ50mを超える巨木がそびえ立つ。ランチ後、軽くトレッキング開始。木漏れ日が広葉樹林を美しく包み、あちらこちらから鳥の鳴き声が深い森に木霊する。



第7回旅を楽しむ会旅行 その2

「北米大陸横断皆既日食観測とセントヘレンズ国立公園を訪ねて」

(第4日目) 8月20日、青空。朝9時、ポートエンジェルズのレッドライオンホテルをゆっくり出発する。途中シアトル市内を観光、タコマ富士を右手に眺めながら次の目的地オレゴン州ポートランドに向かって南下する。ドライバーのケンさんは日本人とアメリカ人やインディアンとの違い、ザ・ウエーブ、グランドサークル奥地、洞窟文化などお薦めの観光スポットを語りながら走る。午後6時頃ヒルトンポートランドエクティクテブタワーホテルに到着。ここに三連泊する。近くのレストランで夕食。



(第5日目) 8月21日、5時、さわやかな朝風が流れるホテル玄関前、高い建物の谷間から見上げる空は星が輝き晴れている。渋滞を見越して早めの出発、朝食は車内で摂る予定。ポートランドの南60kmの観測地点セイラムに向かう。観測する牧場に到着したのは日の出前の6時20分。数張りのテント、キャンピングカー14～5台、ワゴン車やセダン50台位が既にパーキングしている。早速観測の設営を開始する。カメラのセットが完了したのは7時20分。空は見

事な快晴が続いて、時折、飛行機が飛来する。

太陽が欠け始めて(第一接触、9:05:20.6)一斉に観測を開始する。太陽の欠け具合が大きくなり段々暗くなり気温も下がって来る。細くなった太陽にはフィルター付き眼鏡は要らない。裸眼で空を見上げる。

皆既日食に突入する(第二接触、10:17:15.3秒)瞬間は、周囲の緊張がピークに達する。太陽の左下にダイヤモンドリングが出てパッと光る大きなダイヤの美しい輝きに全員息をのむ、一瞬の



ことであつという間に完全な闇の皆既日食状態に突入する。星が輝き出して地平線が茜色に染まりほんのり明るい。半袖では肌寒くなってくる、息を抑えてファインダーを覗き続ける。2分00.1秒後、再びダイヤモンドリングが太陽の右上に現れる。とても言葉では

表現できない程あまりにも美しすぎる。

皆既状態が終了（第三接触、10：19：15）して部分日食に移行すると、緊張が解け周囲の誰もが一齐に喜び合う。持参した日本酒で乾杯。

11：37：52、日食ショーは完全に終了、太陽は何事もなかったように元の姿に戻る。帰路は5時間かかる。ポートランドのレストランで観測成功に乾杯。

（第6日目）8月22日、快晴。
クレタレイク国立公園の予定が
道路交通止めで、急遽マント・セ
ントヘレンズ国立公園に向かう。

1980年5月に大噴火して頂上
部分が吹き飛び溶岩流が谷間を流
れ、川をせき止め、山火が発生
した。その後丸坊主になった山を
世界中の篤志家の協力で植樹、20



数年かけて見事に緑の森を復活させたのである。火山国の日本にも起こりえる災害対策、大いに教訓となる。

（第7日目）8月23日、ANA機でシアトルタコマ空港を出発、日本時間8月24日午後3時、無事帰国する。

今回は参加者不足で催行中止のところ、急遽「いい旅社」のツアーに参加したものである。

旅を楽しむ会 岡川榮司